南砺利賀みらい留学

はつうま通信

2022年　3月23日　発行

はじめに

雪に閉ざされていた利賀の景色の中に、少しづつ春の彩りが感じられるようになってきた今日この頃。山村留学センターの階段を上がっていくと、ふと４月に感じた新鮮な空気を感じて、「あぁもう１年が過ぎるのだな。」とどこかしんみりとした気持ちになった。

あちらこちらから「今日〇〇さんと一緒に下校するのは最後なんだよ。」「これが最後の…」といった子どもたちの声が聞こえてくる。それらの声には惜別の思いが込められているのが声色から感じられる。１年は、長いようで短い。

先日、なかなか小学生たちの宿題が終わらないなと思い、「今日そんなに宿題多いの？」と声をかけた。すると、皆がニコニコしながら「違うよー地元生へ寄せ書きを書いていたの！」と作りかけの寄せ書きを手に私の元へやってきた。ある中学生は「この１年でたくさんの人に顔と名前を覚えてもらったよ！」と嬉しそうに語っていた。「大人になったら、利賀に住みたい。」「友達を連れて来たい。」…ここでは書ききれないほどの愛着の言葉がセンター中に溢れている。そうした子どもたちの姿を目にしたとき、私は改めて、「子どもたちは利賀に育てていただいた。」ことを実感した。

これらの言葉の源泉は、１年間子どもたちをいつもあたたかく見守って下さった学校の先生方、受け入れ家庭の皆様、そして利賀地域の皆様の存在であると確信しております。この場をお借りして、改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

邑上　貴厚

《２・３月の活動カレンダー》

2月

- 25日　センター入り
- 26日　クロスカントリースキー（スポーツ少年団）
- 27日　アルペンスキー③

3月

- ５・６日　雪中キャンプ
- ８日　ホームステイ入り
- 15日　センター入り
- 19日　個人体験活動日
- 20日　アルペンスキー④
- 21日　大掃除・誕生日会
- 25日　センター入り

〒939-2516　富山県南砺市利賀村坂上 18　南砺利賀みらい留学センター
TEL：0763-77-4103　　FAX ： 0763-77-4037
MAIL：nanto-toga-mirai@p1.tst.ne.jp
WEB：http://www.nanto-toga.com/

２／２７・３／２０　アルペンスキー③・④

２月２７日はタカンボースキー場、最後のスキー活動は立山山麓スキー場で行いました。今年度初めてスキーを体験した子どもたちも最終日には様々なゲレンデを楽しんで滑ることができるようになっていました。「スキーってこんなに楽しかったんだ！」「もっと滑れるようになりたい！」とスキーの魅力にハマっているようでした。

３月２３日には、自分たちで使った板・ブーツ・ストックをきれいにし、片付けをして、活動を終えました。

３／５・６　雪中キャンプ

センター裏の雪原で、雪洞泊と昼食づくりに挑戦しました。深い雪中での火起こしのため、何日も前から枝を集めて準備する姿も。

当日５日の午後、雪洞泊の希望者は、自分が寝るための雪洞を掘りました。安全に快適に寝られるよう「どうしよう…？」と考えながら理想の形に近づけていき、数時間かけて完成させると、ほっと顔をほころばせていました。夜は、ほどんどの人が雪洞の中で一晩を過ごしきり「意外と寒くなかった！」「寒かった…」とそれぞれに朝を迎えました。

６日の昼食作りは、ラーメンや焼りんごなどを作って食べました。火起こしに苦戦する姿もあり、１年間で身に付けてきたキャンプの技術を確かめると共に、厳しい冬の自然を感じる機会になりました。

３／２１　大掃除

１年間使用してきたセンターを自分たちが来た時以上にきれいにして、次年度に引き継ごう、という思いを持って、大掃除を行いました。午前中の時間をいっぱいに使って、体育館とセンター全体をきれいにしていき、今回は特に床掃除に力を注ぎました。午後からの誕生日会を予定通りに行うため「午前中でなんとか終わらせるぞ」と意気込み、「疲れた…」「終わらないよ…」と言いつつも、手を動かしていました。広いセンターをきれいにするため作業量は多かったですが、みんなの頑張りがあり、無事に午前中に終了しました。

３／２１　誕生日会

この日の午後は、３学期に誕生日を迎えた３人を祝う会を行いました。まず、しっぽとりやソリで指導員を引く競争など留学生が話し合って企画した競技を雪上で行いました。夕食は、誕生日の３人の希望をもとにして、スパイスカレーとナン、ポタージュとプリンを作りました。「本格的にカレー作ったのはじめて！」「カラメルが焦げた！」とそれぞれに楽しんで調理していました。３人に誕生日カードを渡してお祝いし、夜にも留学生が企画したゲームや有志による一発芸の披露などを楽しみました。準備・進行と協力して進め、楽しみが盛りだくさんの午後となりました。

『 私の利賀村の好きなところは… 』

山菜がたくさん採れることです。私は、ふきのとうのが少し苦手でした。だけど、明美さんが、ふきみそや天ぷらを作ってくださったので、今は大好きです。私が一番好きなのは、すすたけです。パリパリで、とてもおいしいので大好きです。みなさんも食べてみてください。

生田（いくた）　かこ（小3）

自然が豊かで、いろいろな体験ができるところです。特に、僕は農業体験が印象に残っています。また、人もやさしく、明るい村で、散歩をしていると、やさしく声をかけてくれるところも好きです。

金森（かなもり）　在音（ありと）（小4）

利賀の人たちがやさしいことです。地元では１人１人にあいさつができなかったけど、今はたくさんの人にあいさつをしてもらって、自分自身でもあいさつをしようと思うようになりました。

亀谷（かめや）　慶仁朗（けいじろう）（小4）

自然が豊かで、みんな優しいところです。そのため、とても過ごしやすいです。ストレスがあったときも、少しなくなるし、ゲーム以外のいろいろな遊びをすることができ、地元ではできない経験をすることができて、僕はとても好きです。

柴田（しばた）　遥也（はるや）（小4）

利賀の人たちがやさしいということです。あいさつを返してくれたり、気遣ってくれたりして、村の方の優しさを感じました。また、自然が豊かだからこそ、できたこともたくさんあり、自然がいっぱいなところも好きです。

清水（しみず）　春枝（はるえ）（小4）

自然がいっぱいなところです。今まで体験したことがないような緑の豊かさで胸がいっぱいになりました。この利賀の自然の豊かさをもっとたくさんの人に知ってもらい、利賀がいいところだと思ってもらいたいです。

金井（かない）　芽生（めい）（小5）

僕は食べることが大好きなので、利賀の食べ物が好きです。特においしいと思うものは、赤かぶ漬け、山菜の天ぷら、そば、豆腐などなど、言い出したらきりがないです。そんな素敵なものを育てている人がいるところも好きです。

菅間（すがま）　哲平（てっぺい）（中1）

利賀の人たちと食材です。利賀の人はみんなやさしく接してくれるし、注意するときはしっかりしてくれるのでとても好きです。食材で言えば、利賀豆腐のかみごたえとはくしゃくカボチャの甘味などが好きです。

千葉（ちば）　太陽（たいよう）（中1）

地域の方々がとても温かく、家を屋号で呼ぶところがかっこいいです。また、はくしゃくカボチャや岩魚、利賀豆腐などの利賀ならではの食材はとてもおいしかったです。利賀村の紅葉の景色も好きで、とてもきれいで心が安まるし、気持ちがすっきりします。

金井（かない）　有生（ゆうき）（中2）

人が温かいところ、自然が多いところ、食べ物がおいしいところです。私のお気に入りはかっちりです。かっちりは各家庭で味つけが違うので、いろんな家庭の味を食べつくしたいです。

宮坂（みやさか）　日陽（ひより）（中2）

山村留学事業への想い

南砺市商工会利賀村事務所　齊藤　嘉久

「あっ、齊藤さんだ。おはようございまーす。今日は何しに来たの？」、(年末には)「齊藤さん、一年間ありがとうございました。良いお年をお迎えくださいね。」こんな嬉しい言葉を子どもたちがかけてくれる。自分はあまり、子どもたちのお世話をしていない？けど、こんなおじさんにも、声をかけてくれる。再度、嬉しい。山村留学に関わってよかったなー、と思う出来事の一つ。こんな場面に出会えるのも、受入家庭や多くの方々のおかげと思っています。

昨年４月に始まった南砺利賀みらい留学事業も、早くも利賀村での第一期生が修了しようとしています。第一期生のみんな、一年間よく頑張りました。コロナで活動の制約はあったけども、太鼓の演奏や日々の活動では、私もそうですが、住民の皆さんは大いに元気づけられました。

山村留学とは、１年単位で自然豊かな山村で集団生活をしながら、自然体験活動や地域の人々とのふれあいをしていくことで、心身ともに健全な発育を図ることとあります。また、いろんな変化に対応できる「生きる力」を持つ子どもを育てることが、山村留学の求めることの大きな目標の一つとも聞きます。その力は、自然豊かな利賀村のような山村で生活すること、歴史を育んできた多くの人々との関わりの中で養われるともありますが、このことはここ数年で耳にしたことではなく、利賀村でここ数十年間やってきたことと合致すると思います。

利賀村の交流事業、武蔵野市児童の利賀村訪問は姉妹都市盟約の昭和４７年の翌年から、同セカンドスクールは平成７年から始まり、永く、都会の児童と価値のある宿泊体験事業を行っている地域として認められています。武蔵野市の元校長先生が言われた「いのちのともし火」と言う言葉が心に残っています。誰にでも、いのちの灯はある。けれども、コンクリートの中で、自然や人とのふれあいがないところに住んでいるだけではその火をつけることができない子（人）もいる。その子にともし火をつけてやることができるのは、自然豊かな山村の環境であり、そこで自然と共生しながら、あるいは厳しい自然と向き合って生きてきた人々である。人を育てることの意味、人間個々人が持っている可能性を引き出すことの大切さを言っている、この言葉は利賀での山村留学にも通じていると思います。

利賀の魅力は、自然だけでなく、そこに暮らしてきた歴史、いろんな変化に対応してきた人にあると都会の人からよく聞きます。人口は少なくなってきていますが、このことを、みんなが分かる、自覚できるように広められたら、この地域は山村留学事業や都市との交流事業をきっかけとして、もっと、元気な村になると思っています。

《くま爺のつぶやき》

南砺利賀みらい留学
統括主幹　山本

あっという間の一年だった。昨年春、センターの受け入れ準備に大勢の子どもからお年寄りの方まで馳せ参じてくださり、山村留学生を迎えることができた日のことを思いだす。その後も地域のみなさんには多大なる支援協力をいただいた。山村留学をやり遂げた子どもたちをみていると一昨年の夏から冬にかけての家族体験留学（コロナ禍で体験留学会が中止）のことが浮かんでくる。地域家庭にお世話になり自然遊びや昼食づくりをしたのだが、一年間で心身がギューと逞しくなり、気配りも随所でみられるようになってきた。皆様方にはこの紙面をおかりして深く感謝を申しあげたい。ところで先日、南砺市長さんの教育についてのお話を拝聴する機会が…。「子どもたちの教育が大きく変わる。ＩＴを活用した教育の時代に。だからこそ自然の中での遊び暮らしから学び、多様な考え方にふれることが重要である」と。今後も市内の子どもたちと様々な体験活動ができるように取り組んでいきたい。